

## (2) 千里南地区センター再整備の基本的な考え方

### ア. 都市基盤施設の再整備の考え方

地区センターは、ニュータウンの人々が集まり、交流する拠点であり、従来にも増して交通ターミナル機能を維持・発展させていくことが必要である。また、人に優しいまちづくりの観点から、安全性、利便性、快適性の高い施設の整備を目指す。

#### (1) 交通広場の整備

現在のバスの乗降場及びタクシー乗り場をホテル南側にロータリー状に再整備することで、安全でかつ円滑な利用を図る。

また、一般車についてもこのロータリーを利用して乗降できるようにする。

#### (2) 高架駅からの歩行車動線の確保

駅の改札口からの北・西・南方面については、幹線道路を安全に跨ぐ必要性が高く、現在のデッキと横断歩道橋は引き続き重要な施設として維持する。

駅東側は、地盤面が北東方向に高い傾斜となっており、その東端部での歩道の高さが駅改札口とほぼ同じ高さとなっていることを踏まえて、東地区での土地利用計画の中でバリアフリーを実現した動線の確保を行う。また、東側を経由して至る北側の大阪府済生会千里病院との動線についても、同様である。

#### (3) 公共広場の整備

駅の乗降客数が 24,000 人/日(平成 15 年)以上あることや、地区センターとしてのコミュニティの場として、一定規模の公共広場の整備を行う。

#### (4) 駐車場の整備

新商業施設の建設に併せて、商業施設利用者だけでなく、駅前でのパークアンドライドの利用者などの多様な利用が可能となる駐車場を、閉鎖した第 11 駐車場を立体駐車場化することで必要台数の確保を行う。

#### (5) 駐輪場の整備

駅前での駐輪場の再整備とともに、整備される種々の施設の中で必要台数の確保を行う。

## イ. 公共施設の再整備の考え方

千里市民センター等の施設は、施設そのものの老朽化が進んでいることや、市民ニーズの多様化・高度化に対応できる、より充実した機能が今日的に求められていることから、その再整備が必要である。

また、急速な高齢化社会を迎え、高齢者が憩える施設や国際化の進展により、国際交流を促進するための場の提供も必要となってきた。

併せて、千里ニュータウンは 20 世紀におけるまちづくりのモデルとして役割を果たし続けてきたことから、これまでに培ってきた経験やノウハウを継承し、将来のまちづくりに生かせる場づくり等も必要と考えられる。

公共施設の再整備の考え方については、既存公共施設の再整備の中で高齢者の拠点施設や国際交流等も含めた複合的な施設として検討を行う。

ウ. 全体計画ゾーン図

